2023(令和5)年度　個別学力検査　後期日程

文学部　比較文化学科
小論文

【注　意】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は9時30分から11時00分まで(90分間)です。
3. この問題冊子は表紙以外に5ページあり、解答用紙は2枚あります。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答はすべて解答用紙の解答欄に記入してください。
6. 解答用紙の氏名欄を除き、受験者本人の特定につながるような氏名、住所、学校名等は記述しないでください。
7. 解答用紙を持ち出してはいけません。持ち出した場合、試験をすべて無効とします。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題　次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

われわれはなぜ、子どもに対して、純粋とか無垢といったイメージを思い浮かべるのだろうか。現実の子どもたちは、学校や塾での友だち関係や家庭環境のなかで、大人と同じように悩み、そして狡猾に立ち回ったり、ときには思わぬ世知を発揮したりもする。自分の子ども時代をふりかえっても、ただ無垢な存在であったとはとうてい思えない。多くの人がそう感じているはずなのに、われわれが子どもを見るとき、心のどこかで子どもは純真無垢であるという観念が働いてしまい、それはなかなか拭いきれない。子どもを大人とは違った特別な存在と見るこのような観念は、いったい何に由来するのだろうか。

われわれは誰もが、大人になる前に子ども時代を経験する。同じ人間でありながら、年齢によって、人は大人と子どもに区別され、社会生活の多くの局面において異なった扱いを受ける。今日のわれわれの社会では、幼児期、子ども期、思春期、青年期、中年期、老年期などさまざまなライフステージの区分があり、人はそれぞれの年齢段階にふさわしい行動をとるよう社会から期待されている。教育を受けるべき年齢、結婚し家庭をもつのが望ましい年齢、働き盛りの年齢、あるいは退職して老後を送る年齢……、それぞれの段階に、法律や制度や慣習による年齢規範や文化規範が存在する。多くの社会学者が指摘してきたように、年齢は人びとを社会的に区分し編成するための非常に大きな原理であり、そのために人のアイデンティティを構成する要素としても重要な意味をもっている。

〈大人〉は一人前の社会人としてさまざまな権利や義務をもつが、〈子ども〉はそうではない。〈子ども〉は未熟であり、大人によって社会の荒波から庇護され、発達に応じてそれにふさわしい教育を受けるべきである。そうした子ども観は、われわれにとってはほとんど自明のものである。しかし、われわれの子ども観がどこでも通用するわけではない。社会が異なれば、さまざまに異なった子ども観があり、それによって子どもたち自身の経験も異なってくる。このことをア

メリカの社会学者カープ(注1)らは、次のような例を挙げて示している。

たとえば、ナバホ・インディアン(注2)は子どもを自立したものと考え、部族の行事のすべてに子どもたちを参加させる。子どもは、庇護されるべきものとも、重要な責任能力がないものともみなされない。子どもの言葉は大人の意見と同様に尊重され、交渉ごとで大人が子どもの代弁をすることもない。子どもが歩き出すようになっても、親が危険なものを先回りして取り除くようなことはせず、子ども自身が失敗から学ぶことを期待する。こうした子どもへの信頼は、われわれの目には過度の放任とも見えるが、自分と他者の自立を尊重するナバホの文化を教えるのにもっとも有効な方法であるという。

今日のわれわれの子ども観、つまり〈子ども〉期をある年齢幅で区切り、特別な愛情と教育の対象として子どもをとらえる見方は、フランスの歴史家、フィリップ・アリエス(注3)によれば、主として近代の西欧社会で形成されたものであるという。アリエスは、ヨーロッパでも中世においては、子どもは大人と較(くら)べて身体は小さく能力は劣るものの、いわば「小さな大人」とみなされ、ことさらに大人と違いがあるとは考えられていなかったという。子どもは「子ども扱い」されることなく奉公や見習い修業に出、日常のあらゆる場で大人に混じって大人と同じように働き、遊び、暮らしていた。子どもがしだいに無知で無垢な存在とみなされて大人と明確に区別され、学校や家庭に隔離されるようになっていったのは、17世紀から18世紀にかけてのことである。アリエスはこのプロセスを、『〈子供〉の誕生—アンシァン・レジーム期の子供と家族生活』のなかで、子どもを描いた絵画や子どもの服装、遊び、教会での祈りの言葉や学校のありさまなどを丹念に記述することによって浮き彫りにしている。アリエスらによる近年の社会史の研究は、われわれになじみの深い子ども観も、そして、人が幼児期を過ぎ、自分で自分の身の回りの世話ができるようになってからもすぐに大人にならずに〈子ども〉期を過ごすというライフコースのあり方自体も、歴史的、社会的な産物であることを明らかにした。

西欧では〈子ども〉は、社会の近代化のプロセスにおいて、近代家族と学校の長期的な発展のなかから徐々に生み出されていった。一方、日本では、明治政府による急激な近代化政策のなかで、近代西欧の子ども観の影響を受けながらも、西欧とはやや異なったプロセスで〈子ども〉の誕生をみることになった。

明治維新まで、子どもは子どもとして大人から区別される以前に、封建社会の一員としてまず武士の子どもであり、町人の子どもであり、あるいは農民の子どもであった。さらに男女の別があり、同じ家族に生まれても男児と女児ではまったく違った扱いを受けた。たとえば武家の跡取りの子どもは、いつ父親が死んでも家格相応の役人として一人前に勤め、禄(ろく)を得ることができるよう、早くから厳しい教育が施されたし、農民の子どもも幼いころから親の仕事を手伝い、村の子ども集団に参加して共同体の一員としての役割を担った。近世後期以降、寺子屋や郷学(ごうがく)(注4)が農村にまで作られ、そこで読み書きの初歩を習うこともあったが、それはあくまで日常生活に必要な知識にとどまり、労働のなかで親たちから教えられる日常知と区別されるものではなかった。子どもたちは封建的区分のなかで、所属する階層や男女の別に応じて、それにふさわしい大人となるようしつけられた。

明治5（1872）年の学制の公布は、そのようにそれぞれ異質な世界にあった子どもたちを、学校という均質な空間に一挙に掬(すく)いとり、「児童」という年齢カテゴリーに一括した。その意味で、わが国において〈子ども〉はまず、建設されるべき近代国家を担う国民の育成をめざして、義務教育の対象として、制度的に生み出されたということができよう。

しかし、制度ができたからといって、「児童」という存在に対して、当時の人びとがすぐさま、今日のわれわれがもっているような〈子ども〉のイメージを抱いたわけではない。社会的・文化的な意味で「児童」という存在にある属性が付与され、近代的な〈子ども〉観が誕生するためには、学制という制度に加え、もうひとつ別の契機が必要であった。それが文学であった、と柄谷行人(注5)は述

べている。

柄谷によれば、「児童」は「風景」や「内面」とともに近代になって初めて発見された。「児童が客観的に存在していることは誰にとっても自明のようにみえる。しかし、われわれがみているような『児童』はごく近年に発見され形成されたものでしかない」。「児童」は、明治末期、小川未明(みめい)(注6)をはじめとする文学者たちの夢として、あるいは退行的空想として見出された。今日、未明らの描いた「児童」は、大人によって考えられた児童であって、まだ「真の子ども」ではない、と児童文学者や教育者たちから批判されているが、実は未明らが賛美し描いた観念的な存在によってこそ「児童」は成立したのである。その意味で、「児童」がまず、夢や空想をともなう「ある内的な転倒によって見出されたことはたしかであるが、しかし、実は『児童』なるものはそのようにして見出されたのであって、『現実の子ども』や『真の子ども』なるものはそのあとで見出されたにすぎない」。いわば、近代になって人びとの子どもに対する認知の構図が変化したため、新しい輪郭をもった〈子ども〉という存在が浮かび上がってきた。柄谷は、文学という制度のなかにこの重大な認知の図式の変化が生じたと考え、「児童」はまず文学者のロマン主義(注7)的観念として生まれたと主張するのである。

（河原和枝『子ども観の近代』による。ただし、出題に際して原文の一部を改めた。）

（注１）カープ：1944年～ 。アメリカの社会学者。

（注２）ナバホ・インディアン：アメリカの南西部に先住するインディアン部族のこと。

（注３）フィリップ・アリエス：1914年～1984年。フランスの歴史家。

（注４）郷学：江戸時代、藩校の分校や庶民および藩士の教育のため、領主または民間の有志が設立した学校。幕末から明治初年にかけて増加した。

（注５）柄谷行人：1941 年～ 。日本の哲学者、文芸批評家。

（注６）小川未明：1882 年～1961 年。日本の小説家、児童文学作家。

（注７）ロマン主義：フランス大革命後 19 世紀初めにヨーロッパに展開された文学上・芸術上の思潮。ブルジョアの俗物性の支配する社会に反抗して、異郷や過去にユートピアを求め、個性・空想・形式の自由を強調した。

問１　下線部について、近代日本に成立した〈子ども〉とはどのようなものと作者は考えているか、350 字以内で説明しなさい。（100 点）

問２　現代に見られる子どものイメージを具体的に挙げ、その特徴を説明しつつ、そのイメージについてあなたの考えを 400 字以内で述べなさい。（100 点）